

第2回

影をなくした男

考え方

問一 接続語の問題なので、(A)の前後の文の関係をしっかりと覚えておきましょう。

それはそれは美しいあなたの影にうつとりと見ほれていたのだから、
ぎんますよ。

← (A)

あなたときたら足もとのご自分の影にはほとんど無頓着なふうで、
ちっとも目をやるうとはなさいませんでしたがね。

男は、「私」の美しい影にうつとりと見ほれていたと言っています。それとは反対に、「私」のほうは自分の影にまったく関心を持っていなかったというのです。

ですから、前の文とは反対の内容を続けるときに使う、「イ」ところが「が」が正解です。

問二 まず、どのような場面なのかをおさえましょう。男は「私」に影をゆずってほしいと申し出ました。その言葉を聞いて、「私」は「頭の中で風車まわまるような」気がしたのですね。このとき、「私」はどのような気持ちだったのでしょうか。①のあとの文章に注目しましょう。

問四

③を「私」の言葉に注目しましょう。

「よし、承知だ。こいつと影とを取りかえよう！」

はじめは、影をゆずろうなどとは考えてもいなかった「私」ですが、ここでは、なぜかそれを承知しています。「私」の気持ちにどのような変化があったのでしょうか。

③の前の場面を見てみましょう。男は、影のお礼として、不思議なポケットの宝物のうちから好きなものを取るようになりました。そして、「私」は、男の口から「幸運の金袋」という言葉を聞いたとたん、思わず「幸運の金袋ですって！」とさげんだのですね。このことをふまえたうえで、30〜31行目に注目しましょう。おそろしさにふるえてはいましたが「幸運」のひとつがすっかり私をとらえてしまったのです。

そして、ために男の差し出した幸運の金袋に手を入れてみると、次から次へと金貨が出てきました。「私」はその様子を見て、「よし、承知だ」と言ったのです。「私」にとって、幸運の金袋はとても魅力的なものだったのですね。ですから、解答は「幸運の金袋がほしくなったから。」などとまとめましょう。

最初は取り引きするつもりになかった「私」。男の不思議なポケットと、その中の幸運の金袋に心を動かされたのです。



影を買いたいなんぞの申し出をどう受け取ればいいのか？
きつと気がふれているにちがいないありません。

「私」は、男のきみような申し出におどろき、どのように受け取ればいいのかわからなくなったのです。ここから、混乱している「私」の気持ちを読み取れますね。正解は「イ」です。

問三 影は自分の体からはなれるはずのないものですね。それをどうやって引きわたすのか、だれでも不思議に思うはずですが、
②でこの男は、「引きわたす方法について心配する必要はない」ということを言っているのですね。では、「私」の影は、いったいどのようにして男の手にわたったのでしょうか。

最後の段落の二文目に、取り引きが決定したあとの男の行動が書かれていますね。

すると男はこちらの手をにぎり返し、ついて私の足もとにひざまずくと、いともあざやかな手つきで私の影を頭のとっぺんから足の先まできれいに草の上からもち上げてクルクルと巻きとり、ポケットに収めました。

不思議な力を持つこの男は、いとも簡単に「私」の影を手に入れることができたのですね。正解は「すると男は」です。

影を巻きとってポケットに？ 不思議だなあ。



問五

——Xの前に「こんな」とあるので、前の部分を見ていねいに読みましょう。最初に男が話しかけてきたときの言葉に注目。

あなたのその影をおゆずりいただくわけにはまいらないものでしょうか

この言葉から、——Xは、影に関する取り引きだということがわかります。「取り引き」というぐらいですから、影と何かを交換するのですね。では、何と交換するのでしょうか。

問四 でも見たように、「私」は幸運の金袋に心をうばわれ、「こいつと影とを取りかえよう！」と言いました。そして、二人は握手をかわし、取り引きが成立したのです。ですから、「私」が手に入れたものは「幸運の金袋」、男が手に入れたものは「私」の影」ということになります。

ポイント

問題文全体の内容をおさえましょう。

答え

問一 イ

問二 イ

問三 すると男は

問四 幸運の金袋がほしくなったから。

問五 「私」⇔幸運の金袋

男 ⇔ 「私」の影